

臨床研究に関する公開情報

京都市立病院リハビリテーション科では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画書・研究方法についての情報利用について知りたい場合、患者さん自身のカルテ情報を利用されることを拒否される場合など、お問い合わせがありましたら、以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

腰椎固定術による体幹可動域低下が人工股関節全置換術術後患者の健康関連QOLに与える影響について

2. 研究責任者

整形外科 人工関節部長 金 永優

3. 研究担当者

整形外科 脊椎外科 部長 竹本 充

整形外科 脊椎外科 医長 清水優

リハビリテーション科 徳安寛之

4. 研究について

目的：近年、高齢化に伴い腰椎固定術と人工股関節全置換術(以下、THA)の両方を受けられた患者数が増加しています。国内外の報告では、このような患者は、体幹可動域が制限されるだけでなく、生活の質(以下、QOL)が低く、日常生活動作に支障を来しているとされています。しかし、体幹可動域がどの程度制限され、どの日常生活動作で不自由さを感じているのか明らかにされていません。

この研究の目的は、腰椎固定術とTHAの両方を受けられた患者において、体幹可動域がどの程度制限され、どの日常生活動作で不自由さを感じているのか明らかにすることで、退院後に難渋することが予想される日常生活動作において、術後早期から日常生活動作練習や患者に応じた適切な自助具の提案を可能にすることです。

対象：2010年1月～2021年3月の期間に当院にて人工股関節全置換術を受けられた方を対象とします。

研究期間：当院倫理委員会承認より2年間

取り扱う情報：

年齢、性別、身長、体重、疾患情報、手術情報、既往歴、X線画像、日本整形外科学会股関節疾患質問票、リハビリテーション科記録

個人情報取り扱い：

患者データは研究担当者が責任を持って匿名化し、個人情報保護に十分配慮して管理を行いません。診療情報は当院でのみ利用します。

5. 有害事象および患者負担

患者さんへの直接的な介入や侵襲はありませんので有害事象は起こりません。また費用負担もありません。研究へのデータ提供による利益・不利益は特にありません。また、研究への参加・不参加による利益・不利益はありません。

6. 利益相反

開示すべき利益相反はありません。

今回集めた資料は研究発表に使用します。もし患者さん自身、あるいはご家族の情報を本研究に登録されたくない場合は、随時下記連絡先までご連絡ください。取りやめを希望した時点で、すでに研究成果が公表されていた場合は破棄出来ない場合もあります。

この研究計画にご質問がある場合は、下記までご連絡ください。

本研究に関する質問・問い合わせ先

リハビリテーション科 徳安寛之（代表 075-311-5311）

研究機関情報

研究機関名：京都市立病院

研究責任者：整形外科 人工関節部長 金 永優

研究担当者：整形外科 脊椎外科 部長 竹本 充

整形外科 脊椎外科 医長 清水優

リハビリテーション科 徳安 寛之

電話 075-311-5311